

■■メールマガジン「静岡県防災」第62号■■

～ 14回目の3月11日 ～

まもなく、東日本大震災から14年を迎えようとしています。

昨年10月に熊本で行なわれた防災国体で、福島大学の学生2名と檜葉町の6年生の児童2名による活動報告を見学しました。

先ず6年生の児童による口頭での発表があったのですが、全員が保護者の原発避難先で生まれ育ってきたため、現在の檜葉町の小学校4年生から中学生年代までで檜葉町出身者がおらず、子ども達は保護者の檜葉町帰還により友達となったそうです。

子ども達からすると、高校生や大学生の世代が町内には殆どいないため、成長に際しての規範となる先輩（ロールモデル）がいない状況です。

このため、福島大学の学生がロールモデルとなるべく、月1回、福島市から檜葉町に通い、交流活動を進めているそうです。

（その大学生も福島県内出身で、震災時は小学生だったとのこと。）

この若者たちは、能登半島地震発生に際し、輪島市の応援をすることになり、寄せ書きのフラッグを送る等の活動を行なっています。

小学生達は能登半島地震の支援を行なう段になって、初めて、様々な芸能人が来る等の支援が、自分たちの檜葉町に来る理由を理解したということです。

発表を聴きながら、自分自身が年を重ねたことを痛感するとともに、次世代の活動に感動し、頼もしさを感じました。

また、現在、東日本大震災でも大きな被害を受けた岩手県大船渡市が、大規模な山林火災に見舞われています。

3月5日から雨が降り始めたようですが、一日も早い鎮火を祈るばかりです。